

令和5年度

病害虫発生予察情報

第15号

7月月報

北海道病害虫防除所 令和5年(2023年)8月17日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

—暖かい空気が流れ込みやすく、晴れた日が多かった太平洋側で記録的な高温。—

7月は、太平洋高気圧の縁を回って南西から暖かい空気が流れ込みやすく、全道的に気温がかなり高かった。特に太平洋側では晴れた日が多く日中に気温が上がりやすかったため、太平洋側と、太平洋側を含む北海道地方でも、月平均気温の平年差は1946年の統計開始以降、7月として最も高い記録となった。

上旬：気圧の谷や湿った空気の影響を受ける日が少なく、高気圧に覆われた日もあったため、晴れた日が多かった。このため日照時間は多く、降水量は日本海側と太平洋側で少なかったが、低気圧の影響でまとまった雨の降ったオホーツク海側では多かった。低気圧の通過後に寒気の影響を受けた日もあったが、暖かい空気に覆われた日が多かったため気温は高く、北海道地方及び太平洋側でかなり高かった。

中旬：低気圧や前線の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多かった。このため降水量は多く、日照時間は北海道地方及び日本海側とオホーツク海側でかなり少なかった。寒気の影響を受けた日もあったオホーツク海側では平年並だったが、暖かい空気が流れ込みやすかったため、北海道地方及び日本海側と太平洋側では気温がかなり高かった。

下旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かった。このため日照時間は北海道地方及びオホーツク海側で多く、太平洋側ではかなり多かった。また、降水量は北海道地方及び日本海側と太平洋側で少なかった。高気圧に覆われて晴れた日が多かったことに加えて、暖かい空気が流れ込みやすかったため、気温はかなり高く、北海道地方及び太平洋側の旬平均気温の平年差は、1946年の統計開始以降7月下旬として最も高い記録となった。また下旬の期間中に、11のアメダス地点の日最高気温が、7月として最も高い記録となった(根室で7月30日に33.1℃など)。

気候表(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間は比(%))を示す)

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道22地点平均	+2.9	か高	87	並	116	多
日本海側10地点平均	+2.4	か高	80	並	101	並
オホーツク海側4地点平均	+2.8	か高	122	並	104	並
太平洋側8地点平均	+3.6	か高	78	並	140	か多

注)階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。
各階級の幅は、平年値の作成期間(1991~2020の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。
なお、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

II. 病害虫発生概況

注) 本資料における表中の0の表記について

0のみの場合、調査時に発生がなかったことを示す。0.0あるいは0.00などは、四捨五入により数値が表示されていないことを示す。

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生量 多

＜7月13日付け注意報第3号＞

予察田の「きらら397」における葉いもちの発生量は、岩見沢市、比布町及び北斗市で平年より多かった。一般田における巡回調査によると、7月6半旬現在いずれの地点においても発生は認められていない。

予察田における葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	0	0.2	22.0	2.4	28.0	11.1	10
	ななつぼし	2.0	0.5	20.0	4.0	28.0	16.4	10
比布町	きらら397	11.0	0.3	52.0	8.3	73.0	20.2	10
	ななつぼし	15.0	0.4	54.0	6.1	79.0	19.5	7
北斗市	きらら397	13.0	0.3	25.0	5.0	27.0	14.6	10

注)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

一般田におけるいもち病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)				
		7月3半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	
空知	本所	6	0	0	0	0
	南東部	2	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	0	0
	中空知	4	0	0	0	0
	北空知	7	0	0	0	0
石狩	本所	3	0	0	0	0
	北部	7	0	0	0	0
後志	本所	4	0	0	0	0
胆振	東胆振	4	0	0	0	0
日高	西部	2	0	0	0	0

普及センター	地点数	発病株率(%)				
		7月3半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	
渡島	本所	1	0	0	0	0
檜山	本所	2	0	0	0	0
	北部	2	0	0	0	0
上川	本所	7	0	0	0	0
	富良野	3	0	0	0	0
	大雪	4	0	0	0	0
	士別	3	0	0	0	0
留萌	名寄	3	0	0	0	0
	本所	4	0	0	0	0
	南留萌	2	0	0	0	0

2. ウンカ類 発生期 ヒメトビウンカ(第2回)：早、セジロウンカ：並 発生量 並

予察田におけるヒメトビウンカ第2回成虫の初発期は、長沼町、比布町、北斗市で平年より早かった。予察田における水田すくい取りによる初発期は、長沼町及び比布町で平年より早く、北斗市では平年よりやや遅かった。予察田による成虫誘殺数は、北斗市で平年より多く、長沼町及び比布町では平年より少なかった。予察田におけるすくい取りによる捕獲数は、長沼町及び北斗市で平年より多く、比布町では平年よりやや少なかった。

予察田におけるセジロウンカの初発期は、北斗市で平年より早く、長沼町及び比布町では平年並であった。予察田における水田すくい取りによる初発期は、比布町で平年より早く、長沼町で平年並、北斗市では平年よりやや遅かった。予察田における成虫誘殺数は北斗市で平年より多く、長沼町で平年並、比布町では平年より少なかった。予察田における水田すくい取りによる成虫捕獲数は、長沼町及び北斗市で平年より少なかった。

一般田における巡回調査によると、全73地点のうち、ヒメトビウンカ成幼虫の水田すくい取りによる捕獲数が吸汁害の発生する密度(成虫：1,800頭、または幼虫：900頭)に達した地点は認められなかった。

ヒメトビウカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.1	0	1.6	6	1.0	20.0	1.0	10.0	1.7	0	1.5
2半旬	12	1.2	11	4.2	83	2.3	47.5	3.5	20.0	1.8	5.0	1.8
3半旬	9	11.8	4	12.7	20	2.2	22.5	4.4	5.0	4.8	2.5	2.5
4半旬	20	151.6	6	104.2	131	22.0	30.0	6.8	10.0	28.0	2.5	4.3
5半旬	6	50.3	165	191.7	61	18.7	15.0	17.4	50.0	53.8	30.0	5.8
6半旬	33	231.1	73	1640.8	63	30.3	25.0	13.3	25.0	145.5	2.5	7.1
初発期	6月29日	7月12日	6月29日	7月7日	7月2日	7月14日	6月29日	7月13日	6月27日	7月10日	7月9日	7月4日
平年数	10		10		10		10		10		10	

注)初発期は第2回成虫

セジロウカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0	0	0	1	3.8	0	0	0	0	0	3.0
2半旬	0	0	0	0.1	9	0.7	0	0	0	0	0	5.0
3半旬	0	0	0	0.2	3	0.3	0	0.3	0	0.5	0	3.0
4半旬	0	0	0	0	8	0.3	0	0	0	0	2.5	1.8
5半旬	0	0.7	0	0.2	5	1.9	0	0.1	0	0	0	0.8
6半旬	2	1.5	2	14.0	174	32.0	0	2.0	0	1.0	0	2.0
初発期	7月26日	7月25日	7月28日	7月29日	6月28日	7月19日	8.I	8.I	8.I	8.III	7.IV	7.III
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるヒメトビウカ成幼虫の水田すくい取り数(20回振り)

普及センター	地点	地点数	7月6半旬		普及センター	地点	地点数	7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
空知	本所	6	0.3	0.4	渡島	本所	1	1.0	3.0
	南東部	2	0	0		檜山	本所	2	0
	南西部	3	2.3	0.7	北部		2	0	2.3
	中空知	4	0	1.0	上川	本所	7	23.3	21.6
	北空知	7	0	3.1		富良野	3	1.0	25.0
石狩	本所	3	2.0	1.0		大雪	4	2.0	16.3
	北部	7	0.7	4.1	士別	3	2.0	0	
後志	本所	4	1.0	0	名寄	3	0	8.7	
	東胆振	4	0	0	留萌	本所	4	0	0
胆振	4	0	0	南留萌		2	0	0.5	
日高	西部	2	0	0					

3. イネドロオイムシ

発生量 少

予察田における幼虫数は、長沼町で平年よりやや少なかった。被害株率は、長沼町では平年並だった。比布町及び北斗市では幼虫の発生、被害とも認められなかった。

一般田における7月6半旬の巡回調査によると、全73地点のうち、移植栽培で減収する被害葉率70%に達した地点はなかった。

予察田におけるイネドロオイムシの発生状況

月・半旬	水田見取り調査による幼虫数(25株あたり)						被害株率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	105	102.8	0	19.1	0	51.4	92.0	98.5	0	5.7	0	42.8
2半旬	66	86.1	0	14.8	0	35.7	100	100	0	13.3	0	50.0
3半旬	19	70.5	0	7.7	0	17.1	100	100	0	19.3	0	55.0
4半旬	0	44.0	0	3.6	0	8.5	100	100	0	22.0	0	58.8
5半旬	0	23.2	0	1.0	0	5.0	100	98.5	0	21.3	0	59.8
6半旬	1	3.5	0	0.7	0	1.2	100	99.0	0	12.7	0	56.8
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるイネドロオイムシの幼虫数および被害葉率

普及センター	地点数	幼虫数				被害葉率(%)		
		6月6半旬		7月3半旬		7月6半旬		
		本年	前年	本年	前年	本年	前年	
空知	本所	6	19.8	21.3	0	1.0	0.5	0.1
	南東部	2	0	0	0	0	0	0
	南西部	3	0	0	0	0	0	0
	中空知	4	5.0	0.3	0	0	0	0.1
	北空知	7	8.6	4.3	0.7	3.6	0.7	0.4
石狩	本所	3	0	0	0	0	0	0
	北部	7	0	0	0	0	0	0
後志	本所	4	0	0	0	0	0	0
胆振	東胆振	4	0	0	0	0	0	0
日高	西部	2	0	0	0	0	0	0
渡島	本所	1	2.0	1.0	3.0	0	0	0
檜山	本所	2	0	1.5	0	1.5	0	10.0
	北部	2	0	0	0	0	0	0
上川	本所	7	0	0	0	0	0	0
	富良野	3	0	0	0	0	0	0
	大雪	4	0	0	0	0	0	0
	士別	3	0	0	0	0	0	0
	名寄	3	0	0	0	0	0	0
留萌	本所	4	0	0	0	0	0	0
	南留萌	2	0	0	0	0	0	0

注) 幼虫数は25株あたり

4. アカヒゲホソミドリカスミカメ(第2回)

発生期 やや早 発生量 やや多

<8月9日付け注意報第5号>

予察灯による第2回成虫の初発期は、長沼町及び比布町で平年より早く、北斗市で平年よりやや早かった。予察田における水田すくい取りによる初発期は、長沼町で平年より早く、北斗市では平年並であった。比布町では捕獲されなかった。

予察灯による成虫誘殺数は、北斗市で平年より多く、長沼町及び比布町では平年並だった。予察田における水田すくい取りによる捕獲数は、長沼町で平年より多く、北斗市では平年より少なかった。

一般田における7月6半旬の巡回調査によると、水田すくい取りによる発生モニタリングでの「ななつぼし」の追加防除の基準である捕獲数1頭以上となった水田は、全73調査地点のうち、空知、石狩、後志、渡島、檜山、上川、留萌地方の計26地点、「きらら397」及び「ゆめびりか」の追加防除の基準である捕獲数2頭以上となった水田は、空知、石狩、上川地方の計13地点であった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	12	8.5	1	1.4	19	26.6	0	0.3	0	0	0	1.3
2半旬	302	28.6	23	1.5	291	29.8	2.5	0	0	0	0	0.3
3半旬	394	198.1	14	7.9	67	36.7	0	0	0	1.0	0	0.8
4半旬	609	665.1	13	22.3	258	131.1	12.5	1.9	0	5.5	0	0.3
5半旬	138	561.2	144	18.8	580	167.1	5.0	5.4	0	2.8	0	1.8
6半旬	1407	1044.5	26	123.0	490	129.5	22.5	5.0	0	3.0	2.5	4.4
初発日	6月27日	7月5日	6月26日	7月8日	7月2日	7月5日	7月10日	7月29日	-	7月21日	7月28日	7月26日
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソドリカスミカメ成幼虫の20回振りすくい取り数

普及センター	地点	地点数	畦畔				水田	
			7月3半旬		7月6半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年	本年	前年
空知	本所	6	0	0.1	0.3	1.6	2.5	5.9
	南東部	2	0	0	3.0	3.5	0	0.5
	南西部	3	9.0	11.7	6.0	17.7	2.0	4.3
	中空知	4	4.5	5.8	13.0	2.8	0.3	1.5
	北空知	7	0.9	2.1	1.1	2.0	0	2.0
石狩	本所	3	3.3	6.7	6.7	26.7	17.7	5.0
	北部	7	1.6	0.6	0.6	1.6	3.1	6.3
後志	本所	4	1.0	1.3	0.8	1.0	0.5	2.8
胆振	東胆振	4	0.8	0	0	3.0	0	3.8
日高	西部	2	0	0	0	0	0	0.3
渡島	本所	1	0	0	0	2.0	1.0	0
檜山	本所	2	1.0	0	0	0.5	0.5	1.0
	北部	2	0.5	0.3	0	1.5	0	0.3
上川	本所	7	0.4	5.0	2.0	4.7	1.0	0.7
	富良野	3	0.3	8.5	0.7	0	2.0	5.8
	大雪	4	0.8	8.5	2.0	4.0	0.3	2.5
	士別	3	3.3	11.7	0	1.3	0	5.8
	名寄	3	3.0	4.3	0	4.7	0.3	6.7
留萌	本所	4	0	7.0	1.5	3.1	0	0.5
	南留萌	2	0	1.5	1.0	3.0	1.0	1.5

5. フタオビコヤガ 発生量 少

予察灯による成虫誘殺数は、比布町で平年より少なかった。長沼町及び北斗市では誘殺が認められなかった。第2回幼虫による予察田の被害株率は、長沼町で平年より高かった。比布町及び北斗市では被害が認められなかった。

予察田におけるフタオビコヤガの発生状況

月・半旬	予察灯誘殺数						被害株率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.3	0	20.4	0	0.5	20	11.3	0	1.1	0	0.5
2半旬	0	4.7	0	30.4	0	0.1	28	16.0	0	1.1	0	1.8
3半旬	0	8.5	0	8.0	0	0.9	36	16.0	0	6.0	0	1.8
4半旬	0	0.5	0	2.9	0	0	88	-	0	9.3	0	2.5
5半旬	0	0.3	4	4.6	0	0.4	96	-	0	13.6	0	2.0
6半旬	0	3.1	17	107.3	0	0.3	100	-	0	10.4	0	2.0
平年数	10		10		10		3		7		8	

B. 秋まき小麦

1. 赤かび病 発生量 並

予察ほ「きたほなみ」における発生量は、長沼町では平年より多く、芽室町では平年並、訓子府町では平年より少なかった。発生菌種は、長沼町では *F. graminearum* の割合が高く、芽室町では *M. nivale* の割合が高かった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	きたほなみ	15.5	5.3	10	5.0	0	95.0	0
芽室町	きたほなみ	8.3	8.2	10	96.6	0	3.4	0
訓子府町	きたほなみ	0	10.8	10	-	-	-	-

注)M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F.graminearum*、F.cul.: *F.culmorum*

2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおけるムギヒゲナガアブラムシの発生量は、訓子府町で平年より少なかった。長沼町では寄生が認められなかった。ムギクビレアブラムシは、長沼町及び訓子府町で発生が認められなかった。

予察ほの秋まき小麦におけるアブラムシ類の寄生虫数(25穂あたり)

月・半旬	ムギヒゲナガアブラムシ				ムギクビレアブラムシ			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	3.5	11	28.2	0	1.6	0	5.9
2半旬	0	1.3	0	12.1	0	1.0	0	2.7
3半旬	-	0.9	0	3.4	-	0.2	0	0.5
4半旬	-	0	-	3.6	-	0	-	1.3
平年数	10		9		10		9	

注1) 25穂あたりの寄生虫数

注2) - :調査不能

C. 春まき小麦

1. 赤かび病 発生量 少

予察ほの「春よ恋」における発生量は、長沼町では平年より少なかった。比布町では発生が認められなかった。発生菌種は、長沼町で *F. graminearum* の割合が高かった。

予察ほにおける赤かび病発生状況

地点	品種名	病穂率(%)			病原菌別割合(%)			
		本年	平年	平年数	M.niv.	F.ave.	F.gra.	F.cul.
長沼町	春よ恋	1.8	35.7	10	10.0	10.0	80.0	0
比布町	春よ恋	0	2.6	8	-	-	-	-

注)M.niv.: *Microdochium nivale*、F.ave.: *Fusarium avenaceum*、F.gra.: *F.graminearum*、F.cul.: *F.culmorum*

D. とうもろこし

1. オオタバコガ 発生量 並

フェロモントラップによる誘殺数は比布町及び北斗市で平年よりやや多かった。その他の地点では、誘殺が認められなかった。

オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	2.2	1	0.2	0	0	0	0	0	0
2半旬	0	0.3	0	0.1	0	0	0	0	0	0
3半旬	0	0.5	0.5	0	0	0.1	0	0	0	0
4半旬	0	0.8	0.5	0	0	0	0	0	0	0
5半旬	0	0.4	0	0.5	0	0	0	0	0	0
6半旬	0	0.5	0	0	1	0.1	0	0	0	0
平年数	10		10		8		8		8	

E. 豆類

1. べと病(大豆) 発生期 早 発生量 多

長沼町の予察ほにおける初発期は平年より早く、発生量は平年より多かった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	7月10日	7月21日	0.5	0.2	1.5	1.8	26.0	9.6	10

2. 菌核病（菜豆） 発生期 早 発生量 やや多

芽室町の予察ほにおける初発期は平年より早く、発生量は平年よりやや多かった。

7月6半旬の一般ほにおける巡回調査によると、いずれの地点においても発生は認められていない。

予察ほにおける菌核病の発生状況

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月10日	7月20日	4.0	0.5	5.5	2.7	10

一般ほにおける菌核病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
胆振	本所	1	0	0	十勝	本所	3	0	0.7
上川	士別	1	0	0		東部	6	0	0
網走	美幌	2	0	0		東北部	4	0	0
						北部	3	0	0.3
						西部	1	0	0

3. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生期 早 発生量 多

長沼町の予察ほ（小豆）及び芽室町の予察ほ（菜豆）における初発期は、いずれも平年より早かった。発生量は、芽室町では平年より多く、長沼町では平年よりやや多かった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、小豆では胆振及び檜山地方で、菜豆では上川及び十勝地方で発生が認められている。

予察ほにおける灰色かび病発生状況（小豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	7月26日	8月4日	0	0	1.0	0.6	10

予察ほにおける灰色かび病発生状況（菜豆）

地点	品種名	初発期		発病度				平年数
				7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	7月11日	7月20日	13.0	1.8	14.5	7.4	10

小豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
石狩	本所	1	0	0	留萌	本所	1	0	0
後志	本所	2	0	0	網走	本所	2	0	0
胆振	本所	2	0	0		網走	2	0	0
	東胆振	3	2.0	0		美幌	3	0	0
檜山	本所	2	5.0	0	十勝	本所	5	0	0
	北部	1	0	0		東部	6	0	0
上川	大雪	3	0	0		東北部	4	0	0
	士別	2	0	2.0		北部	3	0	0
						西部	2	0	0
						南部	3	0	0.3

菜豆の一般ほにおける灰色かび病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)		普及センター		地点数	発病株率(%)	
			7月6半旬					7月6半旬	
			本年	前年				本年	前年
胆振	本所	1	0	4.0	十勝	本所	3	1.5	0.7
上川	士別	1	5.0	1.0		東部	6	0	0
網走	美幌	2	0	0		東北部	4	1.3	3.8
						北部	3	0	1.7
						西部	1	0	0

4. 食葉性鱗翅目幼虫（大豆・小豆） 発生量 並

予察ほにおける食害程度は、大豆、小豆いずれも長沼町及び訓子府町で平年並であった。

予察ほの大豆および小豆における食葉性鱗翅目幼虫の食害程度

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	13	10.8	4	4.2	10	7.4	0	0.6
2半旬	23	13.6	9	7.0	7	7.8	1	1.4
3半旬	27	19.5	13	11.0	7	9.9	1	3.1
4半旬	27	22.8	19	16.1	9	11.5	1	5.8
5半旬	34	31.1	23	22.8	15	13.9	0	9.7
6半旬	46	35.6	25	26.6	23	16.4	12	12.4
平年数	10		9		10		9	

5. ジャガイモヒゲナガアブラムシ（大豆） 発生量 少

予察ほの大豆における寄生虫数は、芽室町及び訓子府町で平年より少なかった。長沼町では寄生が認められなかった。

予察ほの大豆におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生虫数

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	2.5	1	2.9	4	3.1
2半旬	0	2.0	2	4.9	0	1.6
3半旬	0	0.7	1	8.0	0	3.1
4半旬	0	0	2	7.8	0	3.4
5半旬	0	0.7	0	3.8	0	1.2
6半旬	0	0.4	0	2.6	0	1.1
平年数	10		10		9	

注)25株2小葉、計50小葉の寄生虫数。

6. マメアブラムシ（小豆） 発生量 少

予察ほの小豆における寄生株率は、芽室町及び訓子府町で平年より低かった。長沼町では寄生が認められなかった。

予察ほの小豆におけるマメアブラムシの寄生株率(%)

月・半旬	長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	11.3	0	23.8	8	9.8
2半旬	0	11.6	0	29.2	8	13.3
3半旬	0	6.2	4	23.2	0	19.1
4半旬	0	0.9	0	16.4	0	20.4
5半旬	0	0	0	7.6	0	14.7
6半旬	0	0	0	3.6	0	11.6
平年数	9		10		9	

F. ばれいしょ

1. 疫病 発生期 並 発生量 やや少

＜6月26日付け注意報第2号＞

予察ほの「とうや」における初発期は、北斗市では平年より早く、長沼町及び芽室町では平年並、訓子府町では平年より遅かった。発生量は、北斗市では平年より多く、芽室町では平年並、長沼町及び訓子府町では平年よりやや少なかった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると後志、檜山、上川及び十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおけるばれいしょの疫病初発期

地点	品種名	初発期		平年数
		本年	平年	
長沼町	とうや	7月14日	7月15日	6
	スノーマーチ	7月20日	7月21日	8
北斗市	とうや	6月27日	7月7日	10
芽室町	とうや	7月13日	7月12日	9
	スノーマーチ	7月12日	7月14日	9
訓子府町	とうや	7月23日	7月13日	7
	スノーマーチ	7月19日	7月16日	7

予察ほにおけるばれいしょの疫病発生状況

地点	品種名	発病度											
		7月1半旬		7月2半旬		7月3半旬		7月4半旬		7月5半旬		7月6半旬	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
長沼町	とうや	0	0	0	0.2	0.5	0.6	3.0	6.3	15.0	21.1	15.0	37.9
	スノーマーチ	0	0	0	0.1	0	0.9	0.5	5.8	5.5	16.9	9.5	29.7
北斗市	とうや	5.5	12.8	58.0	21.3	100	35.4	100	40.1	100	42.6	100	45.1
芽室町	とうや	0	0.7	0	4.3	0	11.0	5.5	24.8	32.5	51.1	—	67.9
	スノーマーチ	0	0.9	0	3.8	1.0	8.8	17.0	17.2	56.5	35.2	63.5	59.6
訓子府町	とうや	0	0	0	0.7	0	3.1	0	6.7	0.5	18.2	—	40.7
	スノーマーチ	0	0.1	0	0.6	0	2.7	0.5	5.4	5.5	12.1	20.5	31.8

注1)：-は茎葉の枯凋により調査不能

注2)：平年数は10年

予察ほにおけるFLABSの予測結果の適合性

地点	品種名	萌芽日	基準月日	予測初発日	70%信頼区間	初発日	判定
長沼町	とうや	5月24日	6月29日	7月14日	7/8-7/19	7月14日	○
	スノーマーチ	5月25日	6月29日	7月14日	7/8-7/19	7月20日	×
北斗市	とうや	5月15日	6月7日	6月27日	-	6月27日	-
芽室町	とうや	5月27日	6月11日	6月30日	-	7月13日	-
	スノーマーチ	5月29日	6月12日	7月1日	-	7月12日	-
訓子府町	とうや	5月30日	6月16日	7月4日	6/23-7/14	7月23日	×
	スノーマーチ	5月30日	6月16日	7月4日	6/23-7/14	7月19日	×

注1) 基準月日は萌芽日からの累積危険値が21に到達した日

注2) ○：初発日が70%信頼区間内、×：初発日が70%信頼区間外

注3) -：予測初発日が7月3日より以前の場合、70%信頼区間の計算式がない

一般ほにおけるばれいしよの疫病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)				普及センター		地点数	発病株率(%)			
			7月3半旬		7月6半旬					7月3半旬		7月6半旬	
			本年	前年	本年	前年				本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	0	0	0	網走	本所	8	0	0	0	1.6
後志	本所	4	0	0	1.8	0	網走	清里	6	0	0	0	0
胆振	本所	2	0	0	0	0	網走	網走	2	0	0	0	0
渡島	本所	1	0	0	0	0	網走	美幌	2	0	0	0	2.5
檜山	本所	2	13.0	22.5	13.0	20.5	十勝	本所	5	0	0	0	0
	北部	2	0	2.5	0	2.5		東部	6	0	0	0	0.3
上川	富良野	3	0	0	3.0	0		東北部	1	0	10.0	0	32.5
	大雪	3	0	0	0	0		北部	3	0	0.3	0	0
	士別	1	16.0	0	50.0	25.0		西部	2	0	0	0	0
	名寄	1	0	0	0	0	南部	7	0	0.3	4.1	10.0	
							釧路	本所	2	0	0	0	0
							根室	北根室	1	0	0	0	0

2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、長沼町及び芽室町で平年並、訓子府町では平年より少なかった。ワタアブラムシの発生量は、長沼町で平年よりやや少なく、訓子府で平年より少なかった。芽室町では寄生が認められなかった。モモアカアブラムシは、長沼町で寄生が確認されたが、その密度は低かった。芽室町及び訓子府町では寄生が認められなかった。

一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、多発生の目安となる20複葉当たり20頭の寄生頭数を越えたのは全65調査地点のうち、オホーツク地方の1地点のみであった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0.8	0.5	2.5	1.7	1.5	5.7	5.2	2.6	0	0	1.0	3.7
2半旬	0.8	0.5	6.0	4.1	0.5	7.0	7.6	6.6	0	0.9	16.5	6.4
3半旬	0	0.5	5.5	6.6	1.0	6.4	3.8	11.4	0	0.1	12.0	16.4
4半旬	1.2	0.3	0.5	6.8	0.5	6.3	6.4	16.3	0	1.1	4.0	26.2
5半旬	0.4	0.3	1.0	5.0	0.5	4.8	1.2	8.5	0	2.9	1.0	50.7
6半旬	0	0.3	2.5	2.0	0	1.8	0	2.1	0	2.3	2.0	32.3
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 20株各2複葉、合計40複葉を調査。虫数は10株20複葉あたり換算虫数。品種は「スノーマーチ」

巡回調査によるばれいしよのアブラムシ類寄生虫数

普及センター		地点数	7月3半旬		7月6半旬		本年優占種
			本年	前年	本年	前年	
空知	南東部	1	0	0	0	0	
後志	本所	4	0.3	0	0	0	
胆振	本所	2	1.0	4.5	8.0	5.5	ワタ
渡島	本所	1	10.0	0	13.0	1.0	モモアカ
檜山	本所	2	0	0	0	0	
	北部	2	1.0	0.5	6.5	1.5	ヒゲナガ、ワタ
上川	富良野	3	0	0	0	0.7	
	大雪	3	0	1.7	1.0	0.3	
	士別	1	0	0	0	6.0	
	名寄	1	0	3.0	0	0	
網走	本所	8	8.3	7.5	11.1	4.8	ヒゲナガ、モモアカ、ワタ
	清里	6	5.5	2.0	3.3	2.2	ヒゲナガ、ワタ
	網走	2	0	1.0	0.5	17.5	ワタ
	美幌	2	0.5	12.5	0	6.5	モモアカ
十勝	本所	5	2.0	3.6	0.4	0.4	ヒゲナガ
	東部	6	0	0.5	0	0.7	
	東北部	1	0	0.5	0	0	
	北部	3	0	0	0	0	
	西部	2	0	0	0	3.0	
	南部	7	0	0.3	0	0.7	
釧路	本所	2	0	0	0	0	
根室	北根室	1	0	1.0	0	0	

注1) 10株20複葉調査

注2) ヒゲナガ: ジャガイモヒゲナガアブラムシ、ワタ: ワタアブラムシ、モモアカ: モモアカアブラムシ

G. てんさい

1. 褐斑病 発生期 早 発生量 多 <7月21日付け注意報第4号>

予察ほにおける初発期は、芽室町の「あまいぶき」及び訓子府町の「ライエン」では平年より早く、長沼町の「あまいぶき」では平年並であった。発生量は、長沼町及び芽室町の「あまいぶき」並びに訓子府町の「ライエン」で平年より多かった。

一般ほにおける巡回調査の報告によると、空知、石狩、後志、胆振、上川、オホーツク及び十勝地方で発生が認められ、全78調査地点のうちの53地点で発生が認められた。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名 (褐斑病抵抗性)	初発期		発病度						平年数
				7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	あまいぶき(弱)	7月7日	7月7日	0.8	1.0	10.4	2.3	24.4	10.4	10
	ライエン(やや強)	7月3日	7月9日	0	0.3	6.4	1.3	20.8	3.8	8
芽室町	あまいぶき(弱)	6月27日	7月6日	2.0	2.1	20.8	4.0	26.0	12.3	9
	ライエン(やや強)	6月27日	7月5日	3.2	2.1	21.6	3.1	25.6	6.9	8
	スタウト(強)	6月27日	7月9日	4.4	2.1	22.0	2.8	30.4	6.8	9
訓子府町	ライエン(やや強)	7月4日	7月11日	1.2	0.4	7.6	1.4	21.2	5.0	10

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター			地点数		発病株率(%)				普及センター			地点数		発病株率(%)			
					7月3半旬		7月6半旬							7月3半旬		7月6半旬	
					本年	前年	本年	前年						本年	前年	本年	前年
空知	南東部	1	0	0	1.0	0		網走	本所	9	0	0.1	6.1	0			
石狩	本所	3	0	3.0	0.7	6.0		清里	6	0.2	0.2	20.2	0				
後志	本所	3	0	0.7	6.0	0.7		網走	2	0	2.5	9.0	2.0				
胆振	本所	4	0	0	4.3	0		美幌	5	0	0	0.4	0.2				
	東胆振	3	0.7	0	8.3	0		遠軽	3	0.7	1.0	9.3	2.0				
上川	富良野	3	0	0.7	0	1.0		十勝	本所	7	2.9	0.1	17.7	2.0			
	大雪	3	0	0.3	0	0		東部	6	1.3	2.2	5.7	5.2				
	士別	1	0	0	1.0	24.0		東北部	4	3.0	1.8	18.0	4.3				
	名寄	2	17.5	4.0	32.5	4.0		北部	3	0.3	0	53.3	0				
								西部	3	0.7	1.0	13.7	4.0				
								南部	7	0.7	0.7	6.4	1.9				

2. ヨトウガ(第1回) 発生量 やや少

予察ほにおける見取り調査では、食害程度は、芽室町で平年並、長沼町及び訓子府町で平年より低かった。長沼町では第2回成虫による産卵が確認された。芽室町及び訓子府町では産卵が確認されなかった。

一般ほにおける7月3半旬の巡回調査によると、全78調査地点のうち被害株率が50%以上となったのは上川地方、オホーツク地方及び十勝地方の計4地点であった。

予察ほにおけるヨトウガの卵塊数および食害程度

月・半旬	食害程度						卵塊数(50株あたり)					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	8	28.3	18	14.9	2	2.6	0	0.2	0	0.3	0	0
2半旬	15	39.7	21	19.9	2	6.2	0	0.4	0	0	0	0
3半旬	-	49.0	25.5	26.6	2	10.3	-	0.2	0	0	0	0.1
4半旬	15	57.6	28	32.3	2	15.0	0	0	0	0	0	0
5半旬	38.5	61.7	30	35.8	5	20.2	0	0	0	0	0	0
6半旬	47	62.9	31	37.4	5	23.5	1.5	0.4	0	0.1	0	0
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率および食害程度

普及センター	地点数	被害株率(%)		食害程度		普及センター	地点数	被害株率(%)		食害程度			
		7月3半旬		7月6半旬				7月3半旬		7月6半旬			
		本年	前年	本年	前年			本年	前年	本年	前年		
空知	南東部	1	0	6.0	0	2.0	網走	本所	9	9.4	10.7	7.0	5.8
石狩	本所	3	16.7	20.0	18.0	10.0	網走	清里	6	52.0	5.8	14.8	10.3
後志	本所	3	1.7	14.0	6.0	3.7	網走	網走	2	21.0	17.5	24.0	30.5
胆振	本所	4	6.0	7.0	6.0	8.0	網走	美幌	5	14.2	4.8	12.8	18.0
	東胆振	3	9.7	8.0	7.3	9.3	網走	遠軽	3	14.7	7.7	10.3	5.0
上川	富良野	3	3.0	2.7	0.3	1.2	十勝	本所	7	23.0	13.1	17.9	17.4
	大雪	3	1.3	0	1.0	0		東部	6	7.7	13.6	1.5	3.4
	士別	1	20.0	0	25.0	0		東北部	4	18.8	24.8	7.8	16.0
	名寄	2	51.0	52.0	22.5	13.0		北部	3	5.0	2.0	7.0	2.3
						西部		3	6.0	6.0	6.7	5.7	
						南部		7	18.9	15.3	3.6	12.0	

H. たまねぎ

1. 白斑葉枯病 発生量 やや少

予察ほにおける発生量は、訓子府町では平年並、長沼町では平年より少なかった。
一般ほにおける巡回調査の報告によると、空知、上川、オホーツク、十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	北もみじ2000	25.0	34.7	27.5	50.5	—	73.3	10
訓子府町	北もみじ2000	4.0	4.8	8.0	9.0	25.5	19.0	10

一般ほにおけるたまねぎの白斑葉枯病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)				普及センター	地点数	発病株率(%)						
		7月3半旬		7月6半旬				7月3半旬		7月6半旬				
		本年	前年	本年	前年			本年	前年	本年	前年			
空知	本所	5	0	6.0	41.2	18.8	網走	本所	8	0.8	0.6	4.0	4.9	
	南東部	3	0	0	0	0		網走	清里	2	2.0	50.0	38.5	69.0
	南西部	3	0	0	0	0		網走	美幌	4	0	0	0	0
	中空知	1	22.0	16.0	28.0	4.0		網走	遠軽	1	0	14.0	13.0	19.0
石狩	北部	2	0	0	0	0	十勝	本所	3	0	0	2.7	9.3	
上川	富良野	4	0	0	0	0		十勝	東部	2	2.0	13.0	2.5	38.0
	大雪	1	0	0	0	0								
	士別	1	0	4.0	1.0	9.0								

2. ネギアザミウマ 発生量 やや少

予察ほにおける寄生虫数は、長沼町及び訓子府町で平年より少なかった。被害程度は、訓子府町で平年並、長沼町では平年より低かった。
一般ほにおける7月6半旬の巡回調査によると、全40調査地点のうち、寄生株率が50%以上となったのは空知、上川、オホーツク及び十勝地方の16地点であった。

予察ほにおけるネギアザミウマの発生状況

月・半旬	成虫数(25株あたり)				幼虫数(25株あたり)				被害程度			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	24	85.1	79	77.7	33	202.9	1472	1022.6	31	35.2	96	60.0
2半旬	49	135.6	44	139.0	287	418.3	1450	1137.5	38	45.1	98	73.8
3半旬	17	148.6	21	141.4	58	755.2	925	1489.2	47	54.4	100	84.8
4半旬	52	175.7	13	125.1	195	1533.4	289	1592.7	41	63.5	100	92.4
5半旬	58	159.4	9	96.3	52	611.9	97	1313.7	40	67.8	99	95.6
6半旬	—	39.7	29	70.3	—	115.9	32	1437.2	—	40.3	95	97.8
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) -:倒伏により調査不能

巡回調査によるたまねぎのネギアザミウマ寄生株率(%)

普及センター	地点数	7月3半旬		7月6半旬		普及センター	地点数	7月3半旬		7月6半旬			
		本年	前年	本年	前年			本年	前年	本年	前年		
空知	本所	5	69.8	54.4	87.2	68.0	上川	富良野	4	24.0	7.0	21.3	3.8
	南東部	3	73.0	87.7	75.3	71.7		大雪	1	20.0	10.0	30.0	10.0
	南西部	3	41.3	81.0	17.3	65.3		士別	1	94.0	15.0	90.0	51.0
	中空知	1	42.0	28.0	20.0	48.0	網走	本所	8	40.0	11.8	32.5	7.5
石狩	北部	2	18.5	22.0	24.0	16.0		清里	2	100.0	58.0	100.0	68.0
								美幌	4	2.3	13.5	1.0	14.5
遠軽	1	17.0	33.0	37.0	53.0	十勝		本所	3	41.3	26.0	30.0	25.3
東部	2	45.0	60.0	59.0	83.0								

I. あぶらな科野菜

1. モンシロチョウ 発生量 多

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町及び北斗市で平年より多かった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	7	0.1	45	15.7
2半旬	102	19.1	83	42.2
3半旬	95	38.6	134	70.4
4半旬	52	71.1	96	75.4
5半旬	22	50.6	70	73.9
6半旬	10	30.7	4	39.5
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

2. コナガ 発生量 並

<5月15日付け注意報第1号>

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、いずれの地点においても平年並だった。予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、長沼町で平年より多く、北斗市では平年並だった。

コナガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	118.3	33.4	15	15.6	80	45.4	2	5.2	4.5	4.2
2半旬	137.7	59.0	27	19.6	62	50.7	3	3.8	1	2.4
3半旬	93	106.5	8.5	13.4	68	63.7	4	2.5	4	3.6
4半旬	72	128.1	2.5	12.3	34	55.1	0	5.0	1	3.4
5半旬	6	87.7	3	10.5	9	50.2	0	3.0	1	4.5
6半旬	2	101.2	7	5.8	6	62.2	0	2.1	0	5.1
平年数	10		8		10		10		10	

注) 設置場所はアブラナ科野菜ほ場近辺、比布町、芽室町はアブラナ科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	1	0.6	16	7.1
2半旬	27	5.4	18	17.3
3半旬	91	20.2	84	55.0
4半旬	354	76.3	110	102.2
5半旬	22	171.2	29	149.8
6半旬	14	104.8	1	99.3
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数。

J. りんご

1. 黒星病 発生量 やや少

長沼町の予察園（無防除）での発生量は平年よりやや少なかった。一方、余市町の予察園（慣行防除）では発生が認められていない。

一般園における巡回調査の報告によると、渡島地方で発生が認められている。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	相伝ふじ	26.7	36.6	33.2	48.0	31.3	54.5	6

余市町の予察園（慣行防除）におけるりんごの黒星病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)									
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町	昂林	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—

注1) 余市町の予察園は慣行防除

注2) 調査品種変更に伴い平年値なし

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			7月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	0.4	0.3
留萌	南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病 発生量 並

長沼町の予察園（無防除）における発生量は平年並であった。余市町の予察園（慣行防除）では新梢及び徒長枝のいずれでも発生は認められていない。

一般園における巡回調査の報告によると、渡島及び留萌地方で発生が認められている。

長沼町の予察園（無防除）におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)						平年数
		7月2半旬		7月4半旬		7月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町 王林	新梢	1.5	1.4	0.8	2.0	1.5	2.4	10
	徒長枝	0	0.7	1.0	1.0	1.5	1.5	10

余市町の予察園（慣行防除）におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点 品種名	調査部位	病葉率(%)									
		7月第1週		7月第2週		7月第3週		7月第4週		7月第5週	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
余市町	新梢	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
昂林	徒長枝	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—

注1) 余市町の予察園は慣行防除

注2) 調査品種変更に伴い平年値なし

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			7月3半旬	
			本年	前年
後志	北後志	2	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	33.2	6.1
留萌	南留萌	1	1.0	6.0

3. ハマキムシ類 発生量 少

予察園のフェロモントラップによる誘殺数は、リンゴコカクモンハマキは長沼町及び余市町Aで平年より少なかった。余市町Bでは誘殺が認められなかった。リンゴモンハマキは余市町Bで平年並、長沼町及び余市町Aでは平年より少なかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、リンゴコカクモンハマキは増毛町で平年並、石狩市で平年よりやや少なく、七飯町では平年より少なかった。札幌市及び壮瞥町では誘殺が認められなかった。リンゴモンハマキは増毛町及び壮瞥町で平年よりやや多く、札幌市及び七飯町では平年より少なかった。石狩市では誘殺が認められなかった。

予察園におけるハマキムシ類のフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	リンゴコカクモンハマキ						リンゴモンハマキ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	7.2	0.6	1.5	0	1.5	3	5.3	0.6	1.9	0.7	0.6
2半旬	3	5.5	0	0.5	0	1.2	6	11.4	0	1.4	0	0.3
3半旬	0	2.4	0	0.3	0	0.5	1	5.6	0	1.0	0.6	0
4半旬	4	1.9	0	0.1	0	0.8	2	3.3	0	0	0.4	0.1
5半旬	0	0.2	0	0.1	0	1.6	0	1.7	0	0	0	0.5
6半旬	0	0.1	0	0.1	0	0.9	0	1.0	0	0	0	0.1
平年数	10		10		10		3		3		3	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	札幌市		石狩市		壮瞥町		七飯町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	3.6	0.8	0.5	0	0.6	0	4.6	0	0.5
2半旬	0	2.9	0	0.8	0	0.2	0	2.0	0	0.2
3半旬	0	1.9	0	0.0	0	0.2	0	0.4	0	0.1
4半旬	0	0.6	0	0.4	0	0.1	0	0.3	0	0.1
5半旬	0	0.2	0	0.1	0	0.1	0	0.2	0.3	0.1
6半旬	0	0.4	0	0	0	0.1	1.1	0.3	0.9	0.0
平年数	10		10		10		10		10	

一般園におけるリンゴモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	札幌市		石狩市		壮瞥町		七飯町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0.6	2.7	0	0	0	0	1.1	1.6	0.4	0
2半旬	0.6	3.2	0	0.7	0	0.2	0	0.4	0.6	0
3半旬	0.3	3.6	0	0.7	0.8	0.2	0	0.4	0	0
4半旬	0.5	1.4	0	0.7	1.2	0.2	0	1.1	0	0
5半旬	1.3	2.9	0	0.3	0	0	0	0.2	0	0
6半旬	0.3	1.2	0	0	1.0	0	0.2	0	0	0
平年数	3		3		3		3		3	

4. モモシクイガ 発生量 やや多

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町（無防除）で平年より多く、余市町A（慣行防除）及び余市町B（慣行防除）で平年並であった。長沼町の予察園における産卵数は平年よりやや多く、被害果率の上昇は早かった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、札幌市及び増毛町で平年よりやや多く、壮警町で平年並、七飯町で平年よりやや少なかった。

予察園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						産卵数		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	74	26.7	18.4	8.6	36.8	20.9	23	25.5	0	0.1
2半旬	117	50.8	17.5	10.4	30.8	22.7	100	69.3	18	1.2
3半旬	138	58.6	6.3	16.7	33.1	24.8	167	143.3	24	18.4
4半旬	447	98.6	13.5	20.1	33.6	34.1	304	172.0	82	47.0
5半旬	141	112.8	24.3	27.9	34.3	38.7	357	211.0	99	72.7
6半旬	228	141.6	48.0	38.8	66.9	56.3	316	153.7	100	86.8
平年数	10		10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。産卵数は100果あたりの卵数。

一般園におけるモモシクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	札幌市		壮警町		七飯町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	27.6	14.9	4.8	3.8	2.7	1.1	0.4	0
2半旬	45.6	21.7	6.5	5.6	1.9	3.2	0.6	0.1
3半旬	44.8	32.7	7.9	7.0	8.0	7.0	0	0.2
4半旬	37.5	30.8	7.4	9.3	13.2	17.5	1.0	0.2
5半旬	27.5	30.7	2.1	7.4	17.5	38.3	1.3	0.4
6半旬	28.5	36.9	8.9	8.5	32.4	64.7	0.7	0.4
平年数	10		10		10		10	

5. ハダニ類 発生量 少

予察園において、リンゴハダニはいずれの地点においても発生が認められなかった。ナミハダニは余市町B（慣行防除）で平年より少なかった。長沼町（無防除）及び余市町A（慣行防除）では発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.4	0	0	0	0.4	0	0	0	0.8	0	5.2
2半旬	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0.9	0	1.0
3半旬	0	0.2	-	0	-	0	0	0.1	-	0	-	0.1
4半旬	0	0.7	0	0	0	1.8	0	0.4	0	0.9	0.3	6.5
5半旬	0	0.2	0	0.3	0	0	0	0	0	2.6	0.7	2.6
6半旬	0	0	-	0.1	-	1.5	0	0	-	3.4	-	3.5
平年数	10		10		10		10		10		10	

注) 30葉あたりの寄生数。余市町A、Bの予察園は慣行防除。

6. キンモンホソガ 発生量 やや少

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町（無防除）で平年より多く、余市町A（慣行防除）で平年よりやや少なく、余市町B（慣行防除）で平年より少なかった。被害葉率は、長沼町で平年並であった。

一般園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、増毛町で平年よりやや多く、石狩市、壮警町及び七飯町では平年より少なかった。札幌市では誘殺が認められなかった。

予察園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数および被害葉率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害葉率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	11	7.8	30.9	33.6	4.8	53.4	0.3	0.5
2半旬	24	6.3	37.5	32.5	0.8	50.2	0.6	0.5
3半旬	7	6.8	22.5	37.8	9.4	41.6	0.6	0.7
4半旬	21	6.2	16.4	45.7	20.2	41.5	0.3	1.3
5半旬	17	6.2	7.1	37.6	36.4	92.7	1.6	0.9
6半旬	22	11.8	23.1	70.6	11.1	275.8	4.3	2.2
平年数	10		10		10		10	

注) 余市町A、Bの予察園は慣行防除。

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	札幌市		石狩市		壮瞥町		七飯町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.6	5.4	18.7	0	42.4	0.8	38.4	155.0	114.1
2半旬	0	0.5	2.8	32.7	0	59.6	1.3	64.5	130.6	105.0
3半旬	0	0.7	3.0	38.8	0	46.7	0.5	44.1	120.0	76.6
4半旬	0	0.4	6.2	44.6	0	39.6	0	17.7	84.0	66.4
5半旬	0	0.3	2.9	33.7	0	17.8	0	13.2	84.9	51.3
6半旬	0	0.8	2.7	11.7	2	37.3	0	33.0	190.7	44.3
平年数	10		9		10		10		10	

令和5年

6月1日～8月31日は**農薬危害防止運動**実施期間です！

北海道では、農薬の使用に伴う事故・被害を防止するため、農薬を使用する機会が増える6月から8月を期間として、農薬の安全かつ適正な使用や保管管理等を推進する「**農薬危害防止運動**」を実施します。

周りに配慮して 飛散を防止

守ろう
農薬ラベル
確かめよう
周囲の状況

周囲の状況を踏まえて
使う農薬や使い方を考えよう

周りに影響が少ない
天候や時間帯に行おう

散布機器の機能や性能を
理解し、正しく使おう

十分な時間の余裕をもって
幅広く周知しよう

農薬散布のお知らせ
〇〇年〇月〇日 〇時～〇時
場所〇〇〇〇 目的〇〇〇〇
農薬名〇〇〇 連絡先〇〇〇

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/ 農薬の適正使用 農林水産省 検索

詳しくは
<こちら

令和5年度農薬危害防止運動 農林水産省・厚生労働省・環境省・都道府県共催

★ 農薬情報の掲載サイト

農薬の登録情報や農薬取締法などについては、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」をご覧ください。

URL <https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>

北海道農政部生産振興局技術普及課
(TEL 011-231-4111 (内線)27-838)
北海道病害虫防除所
(TEL 0123-89-2080)
各総合振興局・振興局農務課